

議事1

泉佐野市地域公共交通計画策定に向けて

目次

1 前回協議会議事の振り返り	1
2 自治会による移送サービスについて(追加調査)	3
3 泉佐野市がめざす公共交通ネットワーク	4
4 目標達成に向けた施策・事業主体について	5

1 | 前回協議会議事の振り返り

	ご意見・ご質問	回答
1	事業者ヒアリングのタクシー事業者の意見概要について、「昼の需要を増やしたいが、供給が追いつかない」としているが、実際には午後1時～3時ごろが一番暇でタクシーが余っており、供給が追いつかないというのは誤りである。	タクシー事業者には2社ヒアリングを実施しており、委員とは別の事業者からのヒアリングで人手不足により左記のような状況があるとのことだった。 委員からご指摘いただいた内容についても理解の上、検討を進めてまいりたい。
2	「低炭素」という言葉が使われているが、最近、国も世界的にも「脱炭素」に移行しているような気がする。どちらでも結構だが、文言は今後どうするか検討いただきたい。	「脱炭素」に文言を統一していく。
3	地域公共交通計画策定時の、交通不便地の定義としては ・バス停半径300m圏外 ・鉄道駅半径800m・バス停半径300m圏外 のどちらを使うのか。まだペンディングというイメージでいいのか、あえて交通不便地を広くして、市民からするとかなり手厚い移動サービスを提供することにするのか。	地域公共交通計画の計画書内での公共交通空白地域は鉄道駅半径800m・バス停半径300m圏外で定義する。
4	運行本数に対する不満が多いが、バスの本数を増やしてほしいという市民の声があるということか。	コミュニティバス、路線バスともに運行本数を増やしてほしいという要望が多くなっている。

1 | 前回協議会議事の振り返り

- 以下のとおり、本市の地域公共交通が抱える課題とその解決に向けた基本方針を定めることとした。

地域公共交通の課題

1

歩いて暮らせるまちの実現に向けた
公共交通ネットワークの構築・強化が必要

2

公共交通の利用者を増やすための
市民ニーズに対応した
公共交通サービスの維持・向上が必要

3

様々な層の利用者にとって利用しやすい
公共交通環境の形成が必要

4

少子高齢化・ポストコロナ時代の中で、
日々変化する
社会問題・課題への対応・調整が必要

基本方針

方針1 本市の実情に対応した持続可能な公共交通ネットワークの構築

- 人口減少・少子高齢化等の市の抱える課題を踏まえつつ、最適な役割分担・品質の確保のもと持続可能な公共交通の実現をめざします。
- 市内の誰もが公共交通サービスを受けることができるような公共交通ネットワークを構築します。
- 需要に対して適切なサービスを供給できるように、路線の再編等を行います。

方針2 利用できる・利用しなくなる公共交通環境の充実

- 市民や来訪者の誰もが利用しやすい交通環境の確立をめざします。
- 利用者増をめざし、利用者ニーズに適應した利便性や利用環境の向上による魅力ある地域公共交通の姿を実現します。

方針3 多様な主体の連携による地域公共交通サービスの育成

- 行政・事業者・市民の連携のもと、地域全体で公共交通を支える意識を醸成します。
- 他のまちづくり施策との連携により魅力ある泉佐野市を実現します。
- 近隣市町との連携により、利用者にとって使いやすい公共交通をめざします。

2 | 自治会による移送サービスについて(追加調査結果)

- 新長滝自治会で住民の互助による移送支援事業が実施されており、実施主体である自治会長へヒアリングを実施した。

新長滝自治会 高齢者等生活支援事業 新長滝「すんませんの会」の自家用車を活用した移送支援事業

■自治会長へのヒアリング概要

事業対象地区:新長滝自治会(約250人居住)

輸送の種類:道路運送法の許可・登録を要しない輸送(いわゆる無償/ボランティア輸送)

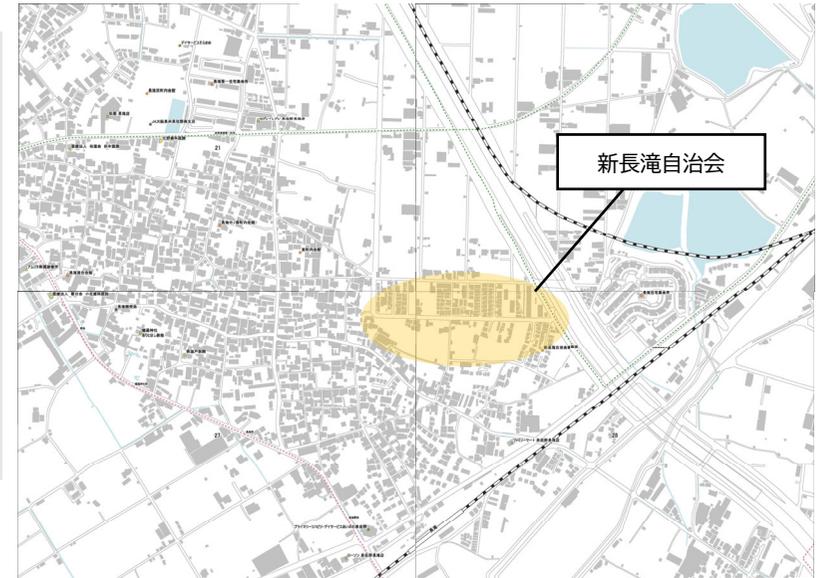
利用実績:約50件/月の利用がある

利用状況:買い物や通院目的で利用されており、リピーター利用が多い

困りごと:現在は自治会長が主体となって移送サービスを実施しているが担い手が不足している

要望:
・担い手不足、運営資金の不足を補うための施策を行政には考えてほしい
・同じようなシステムで移送支援を実施するような自治会が増え、横のつながりができれば助け合っていけるのではないかと思う

▼位置図



■移送支援の仕組み



3 | 泉佐野市がめざす公共交通ネットワーク

- 泉佐野市の公共交通は基幹軸となる2つの鉄道路線(南海電鉄南海本線、JR阪和線)が充実しているため、これら基幹軸をバス等の公共交通で結び、梯子状のネットワークを整備することで、市内の公共交通ネットワークの強化をめざす。
- 市域南部の山間部エリアと交通結節点(JR日根野駅やJR長滝駅)のアクセス性を向上させることで、交通不便地域を解消し、市内を公共交通を使って移動できるようなネットワークを形成していく。

将来構想図

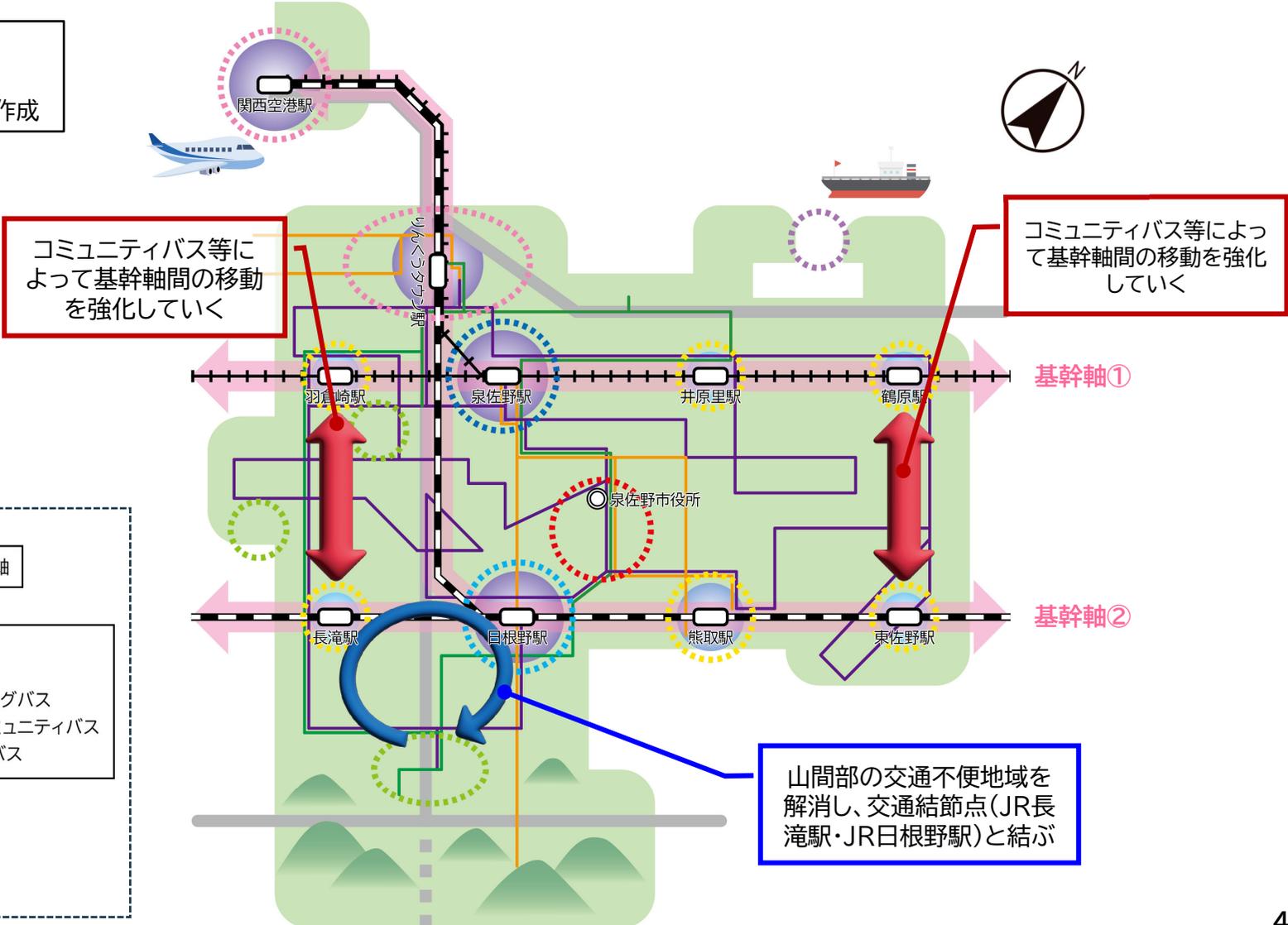
※泉佐野市都市計画マスタープランの「公共交通ネットワーク方針図」をベースに作成

凡例1 (本計画において設定する方針)

- 公共の強化をめざす軸
- 交通不便地域を解消し交通結節点と接続をめざす軸

凡例2 (都市計画マスタープランで設定済みの方針)

- | | |
|--|--|
| <p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政・文化拠点 中心拠点 地域拠点 生活拠点 国際交流拠点 レクリエーション拠点 流通・生産拠点 | <p>【軸】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通軸 |
| <p>【交通拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域交通拠点 地域交通拠点 地区交通拠点 | <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> JR 南海電鉄 南海ウイングバス 泉佐野コミュニティバス 観光周遊バス |



4 | 目標達成に向けた施策・事業主体について

1 施策体系(案)

基本方針	施策の方向性	施策
方針1 本市の実情に対応した 持続可能な公共交通ネットワークの構築	交通不便地域の解消	新たな交通サービスの導入推進
		コミュニティバスの維持・改善
		タクシーの活用検討
		地域の多様な交通資源との連携
	公共交通の維持	既存交通の維持
		事業者と連携した人手不足への対応
		MaaSの推進
	先進技術の活用	次世代モビリティ等の導入推進
		継続的なICT活用研究の実施
公共交通利用料金の補助		
方針2 利用できる・利用したくなる 公共交通環境の実現	お手軽な公共交通の実現	適切な運賃設定
		バリアフリー化検討
	利用環境の整備	待合環境の充実化
		車両環境の充実
		ユニバーサルデザインへの対応
	分かりやすい情報提供	多様なツールを活用した情報提供
		一元的な情報提供
		店舗・商業施設との連携
	方針3 多様な主体の連携による 地域公共交通サービスの育成	地域・団体との連携
モビリティマネジメントの取組の実施		
公共交通利用促進策の実施		ITリテラシーの向上
		運転免許証返納促進事業との連携

4 | 目標達成に向けた施策・事業主体について

2 施策内容(案)

方針1 本市の実情に対応した持続可能な公共交通ネットワークの構築

方向性1 交通不便地域の解消

施策1-1-1 新たな交通サービスの導入推進

■具体的な取組イメージ(案)

- ・交通不便地域の解消に向けて、新たな移動手段となる交通サービスを導入する。
- ・エリア毎に最適な交通サービスの調査・分析を続け、適宜に導入を検討する。
- ・市民のラストワンマイルの移動手段確保のため、シェアサイクルや小型モビリティ等の交通の導入を検討する。

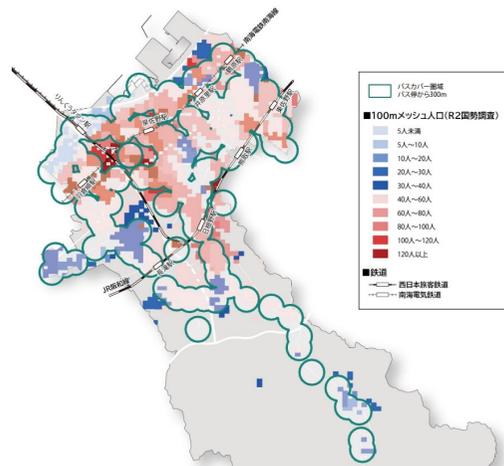


図 本市の公共交通空白地域の状況

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者



出典: 国土交通省

図 シェアサイクル



出典: 国土交通省

図 電動キックボード

施策1-1-2 コミュニティバスの維持・改善

■具体的な取組イメージ(案)

- ・いずみさのコミュニティバスの継続運行と、利用動向を踏まえた運行改善に取り組む。
- ・利用実態調査やアンケート調査によって把握した、遅延等の利用者の不満を解消するための再編案を検討する。

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者

施策1-1-3 タクシーの活用検討

■具体的な取組イメージ(案)

- ・路線バスやコミュニティバスの利用が難しい利用者に対するタクシー利用の誘導や支援策を引き続き検討する。

重度障害者タクシー料金助成事業

在宅の重度障害者の生活行動範囲の拡大と社会参加の促進のため、
タクシー乗車料金(最大680円)が割引されるタクシー利用券を配布します。

乗車料金(最大680円)を助成!



図 泉佐野市重度障害者タクシー料金助成事業

■実施主体: 泉佐野市、タクシー事業者

施策1-1-4 地域の多様な交通資源との連携

■具体的な取組イメージ(案)

- ・スクールバスや福祉施設の送迎車両など、地域の交通資源との連携策を検討していく。

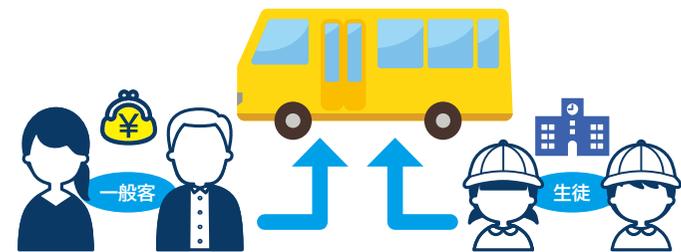


図 交通資源活用のイメージ(例: スクールバスの有効活用)

■実施主体: 泉佐野市、関連施設・団体等

4 | 目標達成に向けた施策・事業主体について

方針1 本市の実情に対応した持続可能な公共交通ネットワークの構築

方向性2 公共交通の維持

施策1-2-1 既存交通の維持

■具体的な取組イメージ(案)

- ・現在の運行サービスの継続的な提供とともに、社会情勢・時代の変化や利用実態、技術の発展に対応した改善・見直しに取り組む。
- ・行政は交通事業者に対し、基幹交通の維持・確保に向けた支援に努める。

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者

施策1-2-2 事業者と連携した人手不足への対応

■具体的な取組イメージ(案)

- ・運転手募集のポスター作成や移住相談会等との連携などにより積極的にPRすることでイメージアップを図る。
- ・将来的にはICTや自動運転等の先進技術の活用により、業務負担の軽減・効率化を図り、人手不足に対応する。



出典: 兵庫県

図 運転士募集ポスター

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者



出典: 国土交通省

図 ICTの活用による運行管理業務の高度化

方向性3 先進技術の活用

施策1-3-1 MaaSの推進

■具体的な取組イメージ(案)

- ・ルート検索や予約、決済をシームレス化する一元的なサービスであるMaaSの推進を検討し、交通事業者や商業・観光施設等の連携を進めていく。
- ・KANSAI MaaSなど既存のサービスの活用や連携について検討を進める。



ホーム画面 経路検索 (列車走行位置連携) チケットサービス 観光モデルコース
出典: 大阪メトロ

図 KANSAI MaaSのアプリ画面イメージ

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者、関連施設・団体等

施策1-3-2 次世代モビリティ等の導入推進

■具体的な取組イメージ(案)

- ・交通DX・GXの実現や担い手不足への対応に向けて自動運転車両やEV車両、AIデマンド型交通などの導入を推進する。



出典: 国土交通省

図 次世代モビリティのイメージ

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者

施策1-3-3 継続的なICT活用研究の実施

■具体的な取組イメージ(案)

- ・日々進歩するICT技術の本市での最適な活用に向けて他地域の事例等の情報収集・研究を続けていく。

■実施主体: 泉佐野市

4 | 目標達成に向けた施策・事業主体について

方針2 利用できる・利用しなくなる公共交通環境の充実

方向性1 お手軽な公共交通の実現

施策2-1-1 公共交通利用料金の補助

■具体的な取組イメージ(案)

- ・山間部に居住する高齢者のバス運賃を助成するチケットを配布する。
- ・その他、高齢者や障がい者、免許返納者、交通不便地域にお住まいの方への助成を検討を続けていく。
- ・交通モード間の乗り継ぎ割引など、割引制度についても検討を行う。

路線バスの運賃助成事業

○対象者

東上、土丸、大木地区に居住する65歳以上の高齢者(約720名)

○助成内容

対象者に対し、犬鳴線のバスが無料で乗車できるチケットを年間36枚郵送。バス会社が回収したチケットについて、市がバス会社に運賃分を支払う。

図 本市の運賃助成事業

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者

施策2-1-2 適切な運賃設定

■具体的な取組イメージ(案)

- ・現在無料で運行中のコミュニティバスの運賃の維持に努める。
- ・新たな交通サービス導入時には採算性を考慮しつつ、利用者にとって利用しやすい運賃設定に努める。

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者

方向性2 利用環境の整備

施策2-2-1 バリアフリー化検討

■具体的な取組イメージ(案)

- ・駅舎や停留所付近におけるバリアフリー化を検討する。
- ・低床車両の導入を推進する。

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者

施策2-2-2 待合環境の充実化

■具体的な取組イメージ(案)

- ・交通結節点や乗降数の多い停留所等において上屋やベンチ、デジタルサイネージなどの設置により、待合環境を充実させる。



図 泉佐野市のデジタルサイネージ(わが街NAVI)

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者



出典: 東京都交通局

図 デジタルサイネージのイメージ

施策2-2-3 車両環境の充実

■具体的な取組イメージ(案)

- ・車内への時刻表や路線図の掲示を検討する。
- ・マナー周知ポスター等の掲示により利用者が気持ちよく利用できるような環境を整備する。
- ・親しみやすいラッピングにより、市民の公共交通に対する愛着を育む。

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者

4 | 目標達成に向けた施策・事業主体について

方針3 多様な主体の連携による地域公共交通サービスの育成

方向性1 地域・団体との連携

施策3-1-1 店舗・商業施設との連携

■具体的な取組イメージ(案)

- ・店舗・商業施設の駐車場を活用してパーク・アンド・ライドやパーク・アンド・サイクルライドを検討する。
- ・商業施設と連携した公共交通サービスの検討などにより、利用者ニーズに応じた交通ネットワークの充実を図る。

バス停に隣接したスーパーやコンビニなどの協力のもと、イトインスペースなどを活用した待合所やトイレの提供を実施している。



出典:熊本市

図 熊本市の事例「バス待ち処」

■実施主体: 泉佐野市、交通事業者、関連施設・団体等

施策3-1-2 地域住民の活動に対する適切な支援

■具体的な取組イメージ(案)

- ・地域住民により運行されている移送支援サービス等について適切な支援策を検討し、実施する。

■実施主体: 泉佐野市

方向性2 公共交通利用促進策の実施

施策3-2-1 モビリティマネジメントの取組の実施

■具体的な取組イメージ(案)

- ・学校や地域等で公共交通利用を促す出前授業・セミナーの実施やパンフレットの配布などのモビリティマネジメントを推進する。
- ・学校、地域、通勤・通学者、転入者を対象とした各種モビリティマネジメント施策の検討・実施を行う。



出典: 姫路市

図 公共交通のパンフレット・乗り方案内

■実施主体: 泉佐野市

施策3-2-2 ITリテラシーの向上

■具体的な取組イメージ(案)

- ・IT化が進む公共交通を高齢者が利用できるようにスマホ講座を実施する。
- ・IT化によって公共交通への抵抗感が生まれまいよう必要に応じた説明資料の配布等の取組を実施する。

■実施主体: 泉佐野市

施策3-2-3 運転免許証返納促進事業との連携

■具体的な取組イメージ(案)

- ・本市が実施している運転免許証自主返納者へのポイント進呈事業に合わせて公共交通の利用を促すパンフレットや乗り方の説明資料等を配布する

■実施主体: 泉佐野市